

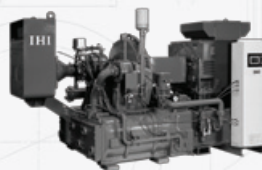
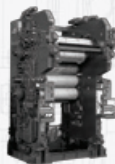
LIFTING DREAMS  
TO THE SKY.

# IHI REPORT

第201期 中間 2017年4月1日～2017年9月30日



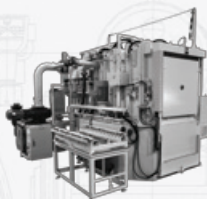
Epsilon rocket:©JAXA, International Space Station・Space station supply vehicle:©JAXA / NASA



MAKING INDUSTRIES  
STRONGER.



IHI Realize your dreams



CREATING  
GLOBAL COMMUNITIES.

BRINGING ENERGY  
TO THE PEOPLE.



「グループ経営方針2016」に掲げる経営目標の達成に向けて、「資源・エネルギー・環境」、「社会基盤・海洋」、「産業システム・汎用機械」、「航空・宇宙・防衛」の4事業領域において収益基盤の強化を図ってまいります。



株式会社 IHI  
代表取締役社長  
満岡 次郎

## 2017年度上半期を振り返っての総括をお願いいたします。

今年度は「信頼回復、そして変える」をスローガンに掲げ、リスクマネジメントの徹底により大型工事の採算悪化を防止すべく諸施策を鋭意進めてまいりました。当第2四半期の連結決算では、北米のプロセスプラント工事における工程遅延のキャッチアップ費用を計上せざるを得ませんでした。かつてのように大型工事の採算悪化が同時多発的に発生する状況にはありません。

民間航空エンジンのスペアパーツの出荷が好調を維持していること、前年に大きな損失を計上したボイラ、F-LNGが「通常運転」に戻ったこと、シールドシステムや建機、船用機械等の事業構造改革が進展したことなどにより、各事業の収益は総じて改善傾向にあり、収益基盤の強化に一定の手応えを感じているところです。

前年度は十分な収益が確保できず、誠に遺憾ながら配当の実施を見送らざるを得ませんでした。通期の業績見通しを勘案し、2期ぶりに1株につき

3円の間配当を実施いたします。

引き続き、株主の皆さまの「信頼回復」につながるよう努めてまいります。

## 一部の大型工事において採算悪化が発生しているとのことですが、対応は進んでいるのでしょうか？

北米のプロセスプラント工事に関しては、工程の改善を含めた新たな据付工事計画に基づき、きめ細かな進捗管理を実施しています。工事を進めている各種のプロジェクトにおいて、採算悪化の兆候を早期に把握し、的確に課題の解決を図ることが非常に重要です。そのため、IHIグループの有識者、

●業績ハイライト (単位:億円)

科目	2017年度 第2四半期	2017年度 通期予想
受注高	7,151	15,000
売上高	7,734	15,500
営業利益	346	650
経常利益	195	570
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	68	230

熟練者を現地工事に配置して、プロジェクトの遂行状況を把握し、迅速に対応する仕組みを強化しています。

また、新規に受注する工事については、昨年度より、社内での受注前の審査においてこれまでも増して多くの知見を集め、プロジェクト遂行にあたってのリスクを多面的に検討しており、見積りから引渡しに至る各段階において、洗い出されたリスクへの適切な対策が取られるように節点管理を徹底しております。

## 来年度は「グループ経営方針2016」の最終年度にあたります。経営目標の達成に向けてどのように取り組むかお聞かせください。

2018年度の経営目標達成のためには、大型工事のリスクマネジメントを的確に行ない採算悪化リスクを低減することに加え、本年4月より移行した事業領域制の下、事業構造改革とビジネスモデルの変革を実現し、収益性の向上を加速していくことが必要になってまいります。

事業構造改革の取組みの一つとしては、各事業の人材リソースの過不足調整など、事業領域が各事業間の経営資源配分を機動的に講じること

により、筋肉質な事業構造を確立するよう進めております。

また、グローバルに展開している拠点をネットワーク化して最適な生産体制を構築する、あるいは最適な調達を実現できる事業構造にすることにより、成長市場のお客さまのニーズに的確にお応えしてまいります。

ビジネスモデルの変革としては、お客さまの事業における課題に対して、機器を供給するだけでなく、運転やサービス面からもサポートし、複数の事業が連携してお客さまの価値向上に資する解決策を提案していくソリューション提供型ビジネスへの転換を進めています。

また、お客さまに納入した製品やプラントの稼働データを当社グループのIoT・AI技術を用いて取得・分析し、異常発生の予兆の検知や制御装置の遠隔調整等により、製品の稼働率を保証するサービスを開始しており、順次拡大してまいります。

これらの取組みをスピーディーに実行し、IHIGroupを「変える」ことにより、経営目標達成に向けて全力を尽くしてまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

### 中間配当 について

1株当たり3円

当第2四半期における中間配当につきましては、1株当たり3円とさせていただきます。

◎当期の期末配当につきましては、1株当たり30円(株式併合後)の予想といたしております。

## Financial Statements

連結財務諸表

### 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 2017年3月31日	当第2四半期末 2017年9月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	1,073,842	1,063,083
現金及び預金	118,909	116,894
受取手形及び売掛金	403,094	373,665
棚卸資産	417,268	453,202
その他	134,571	119,322
固定資産	618,989	597,065
有形固定資産	342,408	340,474
無形固定資産	41,156	38,018
投資その他の資産	235,425	218,573
<b>資産合計</b>	<b>1,692,831</b>	<b>1,660,148</b>

科目	前期末 2017年3月31日	当第2四半期末 2017年9月30日
<b>負債の部</b>		
流動負債	876,248	852,748
支払手形及び買掛金	285,937	292,474
短期借入金及び社債、コマーシャルペーパー	119,111	104,376
前受金	208,907	197,586
その他	262,293	258,312
固定負債	478,953	459,273
長期借入金及び社債	232,495	212,760
その他	246,458	246,513
<b>負債合計</b>	<b>1,355,201</b>	<b>1,312,021</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	309,994	316,477
資本金	107,165	107,165
資本剰余金	53,510	53,508
利益剰余金	149,832	156,714
自己株式	△ 513	△ 910
その他の包括利益累計額	8,169	11,340
新株予約権	843	834
非支配株主持分	18,624	19,476
<b>純資産合計</b>	<b>337,630</b>	<b>348,127</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,692,831</b>	<b>1,660,148</b>

### 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日	当第2四半期累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日
売上高	691,799	773,491
売上原価	586,987	640,486
売上総利益	104,812	133,005
販売費及び一般管理費	92,856	98,383
営業利益	11,956	34,622
営業外収益	7,572	2,988
営業外費用	14,429	18,036
経常利益	5,099	19,574
特別利益	—	1,586
特別損失	—	2,932
税金等調整前四半期純利益	5,099	18,228
法人税等	9,164	9,390
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 4,065	8,838
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1,191	1,956
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 5,256	6,882

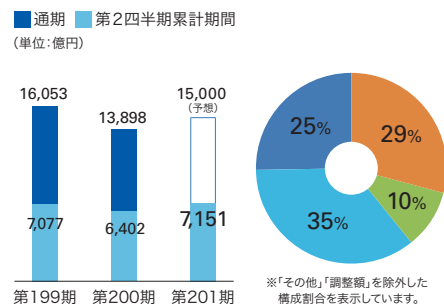
### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

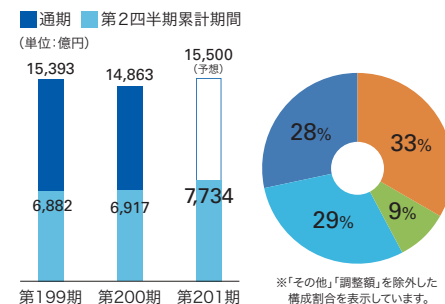
科目	前第2四半期累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日	当第2四半期累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	42,309	43,144
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 30,416	△ 4,685
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 30,391	△ 40,145
現金及び現金同等物の 四半期末残高	77,276	114,740

「産業システム・汎用機械」, 「航空・宇宙・防衛」で受注高・売上高が増加しました。前年同期にあったF-LNGやボイラにおける採算悪化が解消したことなどにより増益となりました。

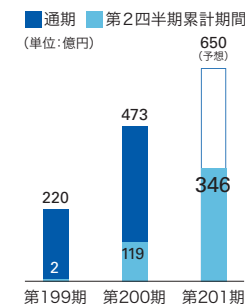
### 受注高(連結)



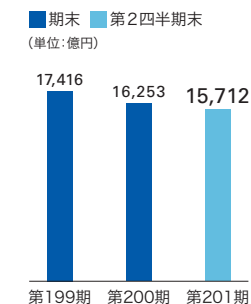
### 売上高(連結)



### 営業利益(連結)



### 受注残高(連結)



#### 資源・エネルギー・環境事業

北米で遂行中のプロセスプラント案件で追加コストの計上があったものの、ボイラでの採算悪化の解消などにより、赤字幅が縮小

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

1,763 億円 ▶ 2,074 億円

プロセスプラントや原子力で減少したものの、ボイラが増加し、311億円増加の2,074億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

2,085 億円 ▶ 2,539 億円

プロセスプラントにおいて大型プロジェクトが進捗したことや、ボイラや原子力、陸船用原動機で454億円増収の2,539億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

△68 億円 ▶ △50 億円

北米で遂行中のプロセスプラント案件で追加コストの計上があったものの、ボイラでの採算悪化の解消などにより、赤字幅が縮小し△50億円

前期末 ▶ 当第2四半期末

7,523 億円 ▶ 7,089 億円

#### 社会基盤・海洋事業

F-LNGの赤字が解消

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

736 億円 ▶ 675 億円

シールドシステムなどで減少し、61億円減少の675億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

666 億円 ▶ 666 億円

シールドシステムで統合の効果や工事進捗に伴う増収があったものの、橋梁・水門の減収などにより、前年同期の横ばいの666億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

△199 億円 ▶ 56 億円

前年同期に計上したF-LNGの赤字が解消したことなどにより56億円

前期末 ▶ 当第2四半期末

1,961 億円 ▶ 1,943 億円

#### 産業システム・汎用機械事業

車両過給機の中国向け販売台数が増加

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

2,114 億円 ▶ 2,463 億円

建機の事業譲渡による影響はあったものの、車両過給機や熱・表面処理で348億円増加の2,463億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

2,029 億円 ▶ 2,271 億円

車両過給機の中国向け販売台数が増加したことなどにより、241億円増収し、2,271億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

79 億円 ▶ 74 億円

売上高の増収はあったものの、回転機械の採算悪化などによりほぼ横ばいの74億円

前期末 ▶ 当第2四半期末

1,484 億円 ▶ 1,582 億円

#### 航空・宇宙・防衛事業

民間向け航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で売上高が増加

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

1,671 億円 ▶ 1,811 億円

航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で140億円増加の1,811億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

2,059 億円 ▶ 2,154 億円

民間向け航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で95億円増収の2,154億円

前第2四半期 ▶ 当第2四半期

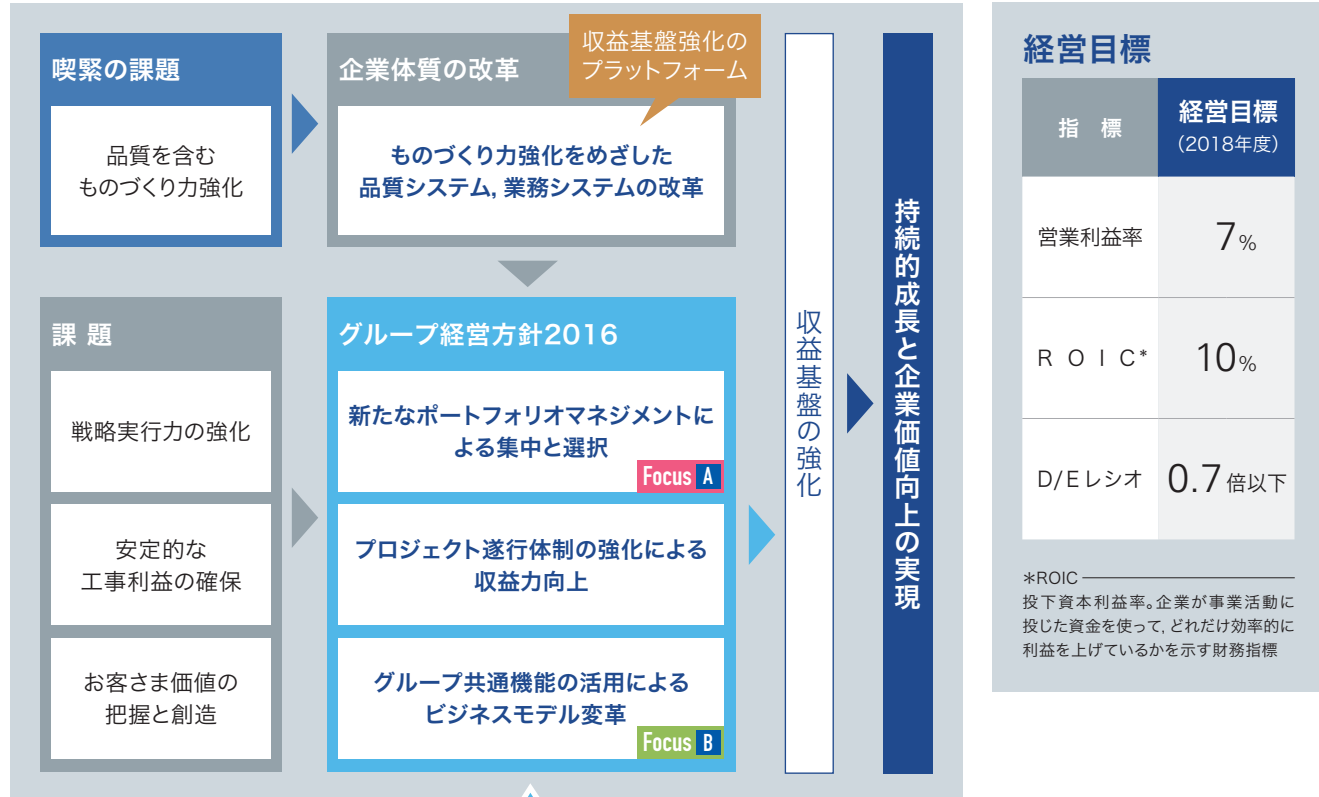
315 億円 ▶ 295 億円

民間向け航空エンジンのスペアパーツの増加による堅調な増益があったものの、新型エンジンの販売増加の影響や販管費の増加などにより、19億円減益の295億円

前期末 ▶ 当第2四半期末

5,110 億円 ▶ 4,855 億円

## 「グループ経営方針2016」の概要



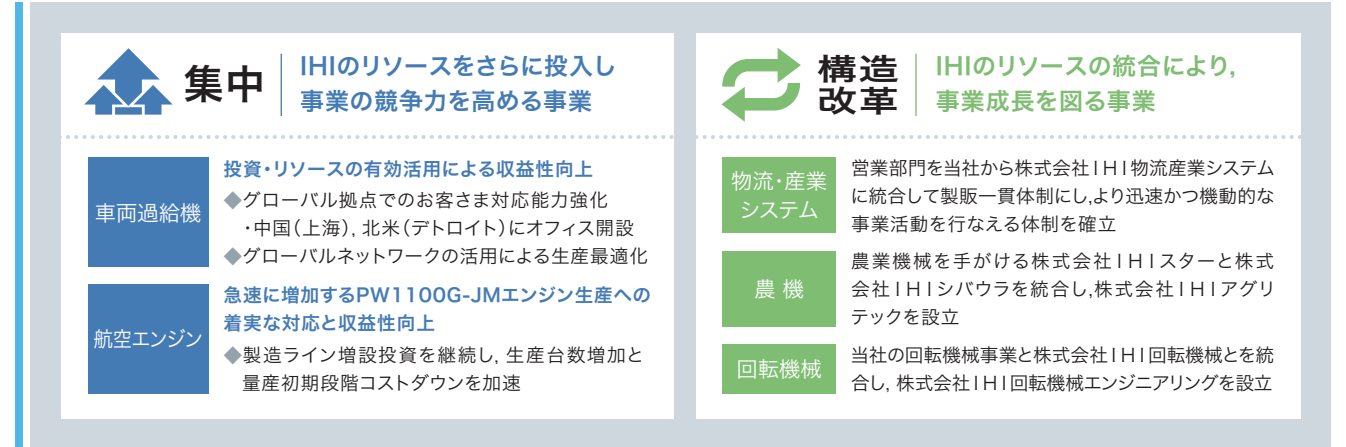
### 「グループ経営方針2016」目標達成に向けてのポイント

低採算大型プロジェクトからの脱却

事業領域制の下での収益性向上の加速

プロジェクト遂行体制強化による、大型プロジェクト工事の採算悪化リスクの低減

### Focus A 事業領域でリソースを集中的に投入し、ポートフォリオマネジメントの効果出しを加速



### Focus B IoT・AIを用いることにより、お客さまに付加価値のある新たなサービスを提案



資源・エネルギー・環境事業

## アジアで石炭火力発電所向けボイラの連続受注

当社は、住友商事株式会社および株式会社東芝との3社共同でバングラデシュの石炭火力発電公社が推進する超々臨界圧(以下、「USC」)石炭火力発電所の建設工事および港湾建設工事を受注(完工2024年予定)いたしました。これらの工事は、総事業費約5,000億円、円借款では過去最大規模であり、当社はボイラ2基および付帯設備の機器製造、据付、試運転までを一括して担当いたします。

また、当社は、インドネシア国営電力会社であるPT.PLNの石炭火力発電所内に増設するボイラ(出力100MW×2基)も受注(運転開始2020年予定)いたしました。昨年同社より受注したロンタール石炭火力発電所内のボイラに続くものです。

●アジアにおける超々臨界圧石炭火力発電ボイラ受注実績(直近5年間)

受注年	国名	工事名称
2017	インドネシア	PT.PLN カルセルテン2石炭火力発電所増設用2基
2017	バングラデシュ	石炭火力発電公社向け石炭火力発電所用USC2基
2016	インドネシア	PT.PLN ロンタール石炭火力発電所増設用USC1基
2014	マレーシア	ジマイストパワー向け石炭火力発電所用USC2基

当社は、今後も著しい成長が見込まれるアジアをはじめとするグローバル市場において、安定的かつ効率的な電力供給を実現するために、高い発電効率と優れた環境性能を誇るボイラを中心とした発電機器・システムを提供してまいります。



バングラデシュで受注したボイラと同型の3D画像

※USCボイラは、蒸気を超高温・超高压化することで発電効率を高め、燃料の使用量とCO<sub>2</sub>の排出量を抑制することができます。

社会基盤・海洋事業

## ノルウェー向け洋上浮体式原油生産貯蔵積出設備の船体引渡し

当社は、ノルウェーのBW Group向けに進めてまいりました、洋上浮体式原油生産貯蔵積出設備(以下、「FPSO」\*)の船体部建造工事を完了し、8月30日にお客さまへ引き渡しました。

本FPSOは、全長240m、幅50m、船体深さ27mの大きさで、本年中に英国領北海の海底油田から原油の生産を始める予定です。

※FPSO: Floating Production, Storage and Offloading Unitの略。



引き渡されたFPSO

産業システム・汎用機械事業

## 新会社の発足

当社は、10月1日付で、産業システム・汎用機械事業領域における事業構造改革の一環として、「株式会社IHI回転機械エンジニアリング」と「株式会社IHIアグリテック」を発足させました。

「株式会社IHI回転機械エンジニアリング」は、当社グループの回転機械(圧縮機、分離装置、大型過給機)事業に関するすべての経営資源を統合・集約した子会社であり、製品開発から営業・設計・製造・サービス等に係る一貫した運営体制を構築いたしました。「株式会社IHIアグリテック」は、芝草・芝生管理機器等を扱う株式会社IHIシバウラと農業用機械を扱う株式会社IHIスターが統合したもので、双方の技術を融合させ、お客さまへより付加価値の高い製品・サービス・ソリューションを供給してまいります。当社グループは、事業構造改革を含む事業の選択と集中を積極的に進め、収益基盤を強化してまいります。

● IHI回転機械エンジニアリング

● IHIアグリテック



オイルフリーターボコンプレッサー



芝草管理機器



飼料用とうもろこしの梱包・ラッピングを行なう「細断型ペーララッパ」

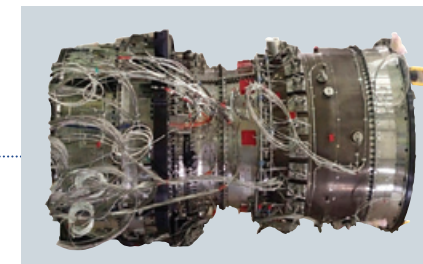
航空・宇宙・防衛事業

## 将来の戦闘機用をめざしたジェットエンジンの主要部分を納入

当社は、将来の戦闘機用をめざして研究試作を進めてきた推力15トン級ジェットエンジンの主要部分(コアエンジン)を、6月に防衛装備庁へ納入いたしました。

今回納入したコアエンジンは、圧縮機、燃焼器および高圧タービンから構成される自立運転可能なユニットであり、ジェットエンジンの性能を左右する重要な部分です。

当社は、将来の戦闘機用エンジンを実現するための研究試作として、2010年度に「次世代エンジン主要構成要素の研究試作」を、2013年度に「戦闘機用エンジン要素の研究試作」をそれぞれ防衛装備庁から受注し、設計・製造を進めてまいりました。今後も防衛装備庁を万全の態勢でサポートし、この事業を通じて世界に誇る技術を発展・統合させ、戦闘機用エンジン開発の技術基盤の構築を図ってまいります。



コアエンジン

## 世界初、100kW級の海流発電の実証実験を完了

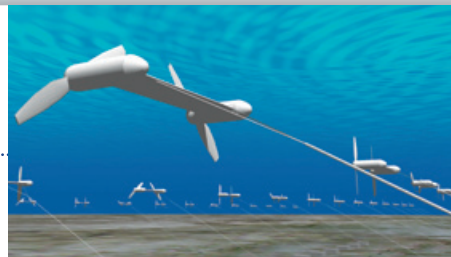
当社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構と共同で、新たな再生可能エネルギーのひとつとして期待されている海流発電の研究開発を行なっております。本年8月には、水中浮遊式海流発電システムの100kW級実証機「かいりゅう」を海中に沈め、100kW規模の海流発電としては世界初となる実証実験を行ないました。



実証機「かいりゅう」

本実証実験は、鹿児島県口之島沖の黒潮流域中で行なわれ、最大約30kWの発電出力を確認することができました。また、水中姿勢を安定させるための自律制御システムの性能の確認や、設置・撤去方法等、今後の実用化に向けたデータを取得することもできました。

本海流発電は、特に離島などでの発電を目的として、2020年の実用化をめざしてまいります。



水中浮遊式海流発電システムの海中への設置イメージ

## 「イズミット湾横断橋」土木学会 田中賞を受賞



イズミット湾横断橋

当社グループの株式会社IHIインフラシステムは、「イズミット湾横断橋（正式名称 オスマン・ガーズィー橋）」の建設で、土木学会 田中賞（作品部門）\*を受賞いたしました。

土木学会 田中賞は、橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に授与される、業界で最も権威ある賞です。

同橋の建設に関して、短工期の達成、斬新な免震構造、スレンダーで優美な景観などが評価されての受賞となりました。同橋は、トルコ北西部に位置しイズミット湾を跨ぐ世界第4位の中央径間長の長大橋で、トルコの経済・産業の発展に寄与すると期待されております。

※土木学会 田中賞(作品部門):橋梁およびそれに類する構造物の新設ならびに改築(既設構造物のすべてあるいは一部を活かした改修等による構造物の機能向上、機能維持)で、計画、設計、製作・施工、維持管理の配慮などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。



動画公開中

### トルコ・イズミット湾横断橋工事記録

迫力ある建設時の様子をウェブにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.ihl.co.jp/iis/videos/video1.htm>



## ウェブページリニューアル

当社は、ウェブページを大幅リニューアルいたしました。見やすさを追求するとともに、決算発表時には、決算情報に加え、役員による決算説明の様子を映像や音声により発信するなど、詳細な情報を掲載しております。

「個人投資家の皆さまへ」のページでは、当社グループの特徴や最近の業績をまとめました。また、最新のIR資料にもアクセスしやすくなっております。ぜひ一度ご覧ください。

● 個人投資家の皆さまへ

[https://www.ihl.co.jp/ihl/ir/individual\\_owner/](https://www.ihl.co.jp/ihl/ir/individual_owner/)

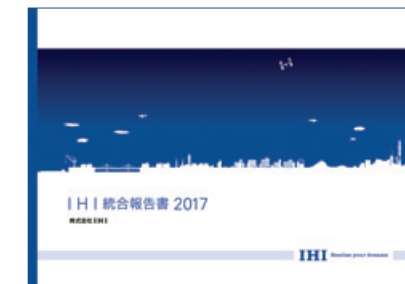


## 情報提供サービス

2015年から開始した当社グループに関する情報をお届けする情報提供サービスには、9月末時点で22,000名を超える株主さまにご加入いただいております。加入者の皆さま向けに、「IHI 統合報告書2017」を送付し、2,000名以上の方からご意見を頂戴しました。今後のIHI 統合報告書の作成に活かしてまいります。

また、当社瑞穂工場と横浜事業所での工場見学会には、800名を超える方にご応募いただきました。当選された方には、当社グループのものづくり力を体感いただきたいと考えております。

来年度につきましても、当社グループを理解いただけるよう、より魅力的なサービスを行なえるように努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



瑞穂工場全景



横浜事業所全景

## 会社の概要 (2017年9月30日現在)

商号	株式会社 I H I I H I Corporation
設立年月日	1889(明治22)年1月17日
本社所在地	〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
資本金	107,165,393,180円
株主数	81,585名
ホームページアドレス	https://www.ihico.jp

## 役員 (2017年9月30日現在)

## ● 取締役

代表取締役会長 齋藤 保

代表取締役社長  
(兼)最高経営責任者 満岡 次郎

代表取締役副社長 石戸 利典

代表取締役副社長  
(兼)副社長執行役員 寺井 一郎取締役(兼)常務執行役員 大谷 宏之  
望月 幹夫  
識名 朝春  
桑田 敦取締役(兼)執行役員 山田 剛志  
栗井 一樹社外取締役 藤原 健嗣  
木村 宏  
石村 和彦  
田中 弥生

## ● 監査役

常勤監査役 上杉 繁  
菅 泰三社外監査役 橋本 孝之  
八田 陽子  
谷津 朋美

## ● 会計監査人

新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

## ● 執行役員

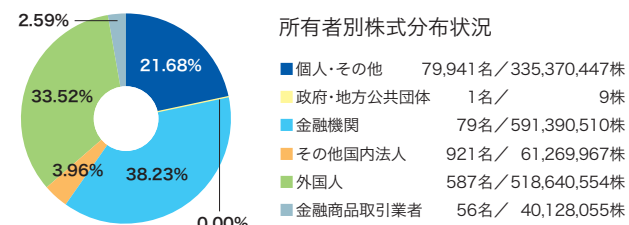
常務執行役員 榊 純一  
國廣 孝徳  
水本 伸子執行役員 長野 正史  
矢矧 浩二  
村野 幸哉  
池山 正隆  
川崎 義則  
村上 晃一  
新村 高志  
米澤 克夫  
国貞 寛  
高柳 俊一  
川口 雅人  
松本 直士  
吉田 光豊  
井手 博

## 株式事項 (2017年9月30日現在)

## ● 株式の総数

発行可能株式総数 ..... 3,300,000,000株  
単元株式数 ..... 1,000株  
発行済株式の総数 ..... 1,546,799,542株  
うち単元株式数 ..... 1,544,415,000株

## ● 株主構成



## ● 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%) (自己株式含まず)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	75,001,000	4.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	72,620,000	4.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	55,422,000	3.58
第一生命保険株式会社	54,060,700	3.50
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	47,544,315	3.07
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	45,979,000	2.97
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	37,986,104	2.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	30,155,000	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	29,015,000	1.87
I H I 共栄会	25,380,000	1.64

(注)IHI REPORTの作成に当たり、金額および持株比率は単位未満を切捨て表示しました。  
ただし、連結財務諸表の金額は四捨五入表示しました。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会・期末配当:毎年3月31日  
中間配当:毎年9月30日  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店  
および全国各支店で行なっております。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について  
株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座で管理されている株主さまは、特別  
口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

・未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## &lt;用紙のご請求先&gt;

証券会社の口座に株式を保有されている株主さま  
▶ 株主さまの口座のある証券会社  
特別口座に株式を保有されている株主さま  
▶ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-782-031(フリーダイヤル)

## 株式併合と単元株式数の変更について

当社は、2017年6月23日開催の第200回定時株主総会の決議に基づき、当社普通株式について、2017年10月1日付で10株を1株に併合し、同日付で単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。  
株主の皆さまには新株式数を記載したご通知を10月30日に発送させていただきます。  
なお、株式併合の結果、1株未満の端数が生じた株主さまには、端数処分金をお支払いいたします。



# IHI

Realize your dreams

## 株式事務のお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

